

「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携支援に関する実践的活動研究 報告書 概要

【(財)建築技術教育普及センター 平成24年度調査・研究助成】による

「インテリア・リフォーム系キャリア教育」支援構想委員会

責任者 澤田知子 (工学院大学研究員)

委員 堀 啓二 (共立女子大学 家政学部 教授)

委員 後藤 治 (工学院大学 建築学部 教授)

委員 飯島直樹 (工学院大学 建築学部 教授)

委員 富永祥子 (工学院大学 建築学部 准教授)

委員 江川香奈 (東京電機大学 情報環境学部 助教)

委員 下田清二郎 (東京インテリアプランナー協会)

委員 稲垣雅夫 (東京インテリアプランナー協会)

委員 黒岩幹夫 (マンションリフォーム推進協議会)

委員 永元 博 (マンションリフォーム推進協議会)

1. 本研究の背景

大学では、社会のニーズに応えた「人材育成機能の強化」の方針が遂行されるなか、「建築」だけでなく、「インテリア」や「リフォーム」の専門分野を拡充するニーズが、工学部・家政学部などで顕在化している。一方、対応する産業界では、インテリア関連として「東京インテリアプランナー協会」、リフォーム関連として「マンションリフォーム推進協議会」などの組織があり、資格制度の普及促進等によって、人材育成支援の活動を展開している。学生一人ひとりが自分の将来に明るい希望を持ち、専門知識・技術を身につけて大学を巣立ち、有能な職業人として活躍できるよう、専門分野として期待される「インテリア・リフォーム系」に焦点をあてた「産学連携支援」を推進することは、教育界・産業界を通じた共通課題であり、人材育成としての大きな期待と言える。この課題に応えるため、平成23年度調査研究で「基礎的調査研究」を完了（同報告書参照）。この成果を受けて、平成24年度調査研究を企画したものである。

2. 本研究の目的

平成24年度の調査研究の目的は、「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携支援に関する実践的活動として、「①産学連携組織の活動を継続する」とともに、「②キャリア・アッププログラムを試行的に実施」し、その活動成果について、アンケート調査等で検証することにより、産学連携支援体制に基づく「キャリア教育」のあり方・効果・課題について検証・考察し、今後の活動に繋げることを目的とする。

実践的活動として試行的に実施した「キャリア・アッププログラム」の内容は、以下である。

- ①関連する「資格試験受験対策講座」の試行的な実施
- ②関連する「イベント(APEC2012)」における学生の参加プログラムの導入
- ③「先輩・後輩の絆づくりプロジェクト」として、紙媒体の「先輩冊子」の制作

3. 本研究の方法と組織体制

ここでは、平成23年度に実施した調査研究の成果を整理し、具体的な課題を提示するとともに、活動母体として「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携体制について示した。

4. 「資格試験対策講座」の試行的な実施

4.1 講座開講の企画

資格試験対策講座の具体的企画は、以下の2つである。

①講座名：「マンションリフォームマネジャー」資格試験対策講座

主催：「インテリア・リフォーム系キャリア教育」支援構想委員会

日時：9月9日(日) 9:30~18:00 場所：工学院大学新宿キャンパス

教材：講義用テキスト一式(マンションリフォーム推進協議会作成) 学科試験対策講座テキスト 学科試験問題集
設計製図試験対策「要点整理」設計製図試験「練習問題集」 公式テキスト(住宅リフォーム・紛争処理支援センター作成)
マンションリフォーム実務者必携2012上巻 同下巻 マンションリフォームのための建築の一般知識

②講座名：「インテリアプランナー」資格試験対策講座

主催：「インテリア・リフォーム系キャリア教育」支援構想委員会

日時：10月14日(日) パース講座 1日(8時間) 10月21日(日) 設計製図講座 1日(8時間)

場所：工学院大学新宿キャンパス

教材：パース講座用、設計製図講座用 (東京インテリアプランナー協会提供)

「マンションリフォームマネジャー」資格試験対策講座は、受講生6名で実施した。しかしながら、募集の時期が夏休みと重なり、反響が得られず、「インテリアプランナー」資格試験対策講座については受講生がゼロであった。

4.2 資格試験対策講座における考察と成果

実施した「マンションリフォームマネジャー」試験の最終的な結果は、学科・製図とも合格2名、学科のみ合格2名、両方不合格2名であった。受講生に対しては、「講座終了後」に第1回アンケート、「試験の可否発表後」に第2回アンケートを実施。また、回収した学生アンケート回答を主催者側に提示し、主催者側アンケートを実施した。

両者のアンケート回答を総括すると、今回の試行的な実施である「マンションリフォームマネジャー資格試験対策講座」においては、研究室の教授や就職先企業から勧められて参加した対策講座ではあったが、学生は将来に住宅リフォーム分野に関わることが決まっていたり、望んでいたこともあり、また講座内容は短期間ながらも受験対策として極めて「役にたつ」ものであったことから、受験の結果として「学生でも十分合格で

きる」という実績をつくることができた。とりわけ「学科」の合格率は高く、「製図」の講座を拡充すれば十分ということもわかった。この成果は、産業界から歓迎されているだけでなく、学生が一步前進する行動（資格試験受験）を起こすことで、「自信」や「目的意識」を明確にし、自分の可能性を展望する「良い経験」となった成果も明らかであり、学生の「キャリア教育」支援の観点からも、有意義な結果を残したと言える。

5. 「IPEC2012」における学生参加プログラムの導入

5.1 学生参加プログラムの概要

今年で第12回を迎えた「IPEC2012」は、新しい試みとして、工学院大学の共催というかたちで実施。産業界と人材育成の場である学界との交流を図り、新たな連携を生み出す方針とし、「大学生とプロの出会いの場」の企画を盛り込んだ。

①イベント概要

主催：一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 共催：学校法人 工学院大学
会期：2012年11月8日(木)～10日(土) 会場：工学院大学新宿キャンパス 1Fアトリウム

②展示

デザイン・ユニット デザイナーズ・ショーケース ハンドレッド・マテリアル 工学院大学学生作品展示

③シンポジウム

11月8日(金)IPEC特別シンポジウム 「コムデギャルソンの空間デザイン/川久保玲の所作」
11月10日(土)工学院大学建築学部開設記念シンポジウム 「茶室談義－伝統と現代」磯崎新×藤森照信対談

④会場でのセミナー

11月9日(金)「インテリアプランニングアワード優秀賞受賞者による 自作を語る」
11月10日(土)「インテリア関連企業による学生向けセミナー」

5.2 学生参加プログラムにおける考察と成果

IPEC2012のイベント開催後に、工学院大学の学生18名と教員2名にアンケート調査を実施した。学生アンケートの回答者は、インテリア専門教員の研究室に所属し、「学生作品展示」に主体的に関わり、シンポジウムの実施等のお手伝い等も行った学生である。ただし「インテリア関連企業による学生向けセミナー」は学生のキャリア教育を意図した企画であったが、参加者が極めて少なく反響は得られなかった。学生・教員のアンケート回答から、「学生参加プログラム」の成果を総括すると、会場展示が学生にとって勉強の素材となること、学生作品展示については自身で関わった人は勉強の機会となったことが伺えるが、「学生とプロの出会いの場」の提供という企画については、消極的な成果に終わっている。

6. 先輩・後輩の絆づくりプロジェクト『私の社会人体験記』の制作

6.1 『私の社会人体験記』制作概要

大学生にとっては、自分たちの一歩先を行くかたちで「社会人」となった「先輩」たちの体験や考え方を見習いたいと思うのは当然であろう。そこで本年度は、関連企業で活躍している「先輩」から「後輩」へのメッセージを伝える冊子を制作し、「キャリア形成支援」の一貫とした。

大学教員と関連企業から推薦してもらった「先輩」は、若手社会人16名であり、この「先輩」を対象に、設問に回答してもらい、カード形式の「先輩」冊子を作成した。「先輩」への質問項目は、①自己紹介、②私の学生時代、③就職活動と就職後の仕事、④先輩から後輩へのメッセージである。この冊子名称は『私の社会人体験記』とし、連携大学9校に配布し、先輩から後輩への絆形成の一助とする予定である。

6.2 『私の社会人体験記』の記載事項における考察

報告書では、上記の設問項目ごとに、具体的記述事項を分析・考察しているが、本概要では誌面の都合で省略する。「先輩」からのメッセージを総括すると、学生時代には学業だけでなく課外活動等で多くの実体験を積み、社会人としての基礎力を身につけることが重要である、また目標を見失わず、努力を続けるという意志の強さも重要であるとアドバイスしている。また、周囲の人間関係や人との良い出会いが自分を成長させるというアドバイスもあることから、「先輩」と「後輩」の絆づくりの重要性も示唆されている。

7. 「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の実践的活動を通じた検討課題

7.1 インテリア・リフォーム関連の資格取得についての課題

ここでは、社会人となった若手社員(上記の「先輩」)の資格取得状況について分析した。その結果、「取得ならびに取得予定」の資格で最も優位なのは「一級建築士」、ついで「二級建築士」「インテリアコーディネーター」と続き、「インテリアプランナー」や「マンションリフォームマネージャー」は認知度や必要度が低い状況が読み取れた。学生・若手社会人が「資格取得」を目指す効用として、「専門的知識を習得できる」「お客様(クライアント)への説得力と信頼感が得られる」「自分自身の目標をつくる」「自分の将来への希望と自信を自覚できる」などが意識されている。資格取得の体験を積むことは、自分の能力や将来をより積極的に形成することに通じる点でキャリア形成の効果も大きいことがわかった。

7.2 大学における「キャリアデザイン教育」についての課題

ここでは、学生や若手社会人の志望する「キャリア・デザイン(自分の仕事・人生の方向を構想すること)」の観点から検討した。学生・社会人ともに、男性に比較して、女性の方が早くから自分の「キャリア・デザイン」について具体的に思い描く傾向が強い。これは入社後の年数や年齢があがるとともに、仕事と結婚生活の両立、さらに仕事と家庭と子育ての両立という難しいライフステージに至ることを十分承知しているためとも言える。こうした側面からも、若手の人材育成支援が必要であることが示唆されている。

7.3 産学連携のキャリア形成支援に関する実践的活動研究の成果と今後の課題

本研究では、「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携支援に関する実践的活動研究として、3種の「キャリア・アッププログラム」による試行的な活動を行い、その成果について考察してきたが、この全体成果について総括している。また、本研究の実践的研究成果として、建築・インテリア・リフォーム分野の産学連携支援活動の方向が、「キャリア教育」として有効であることが確認できた。具体的な運用実績に至るには、今後も継続的な活動が必要とされている。